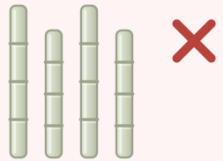
伝統の技を受けつぐ工夫と課題

伝統的な産業がこれからも続いていくには、どんな工夫が必要なのだろう

課題（いまこまっていること）		工夫（課題に向き合う取り組み）
	1 つくる人が少なくなり、年をとった人が多い 技を覚えるのに何年もかかる	向き合う →  1 見習いの制度で、若い人がつくる人のもとで技を学ぶ 体験教室で子どもや観光客にも伝える
	2 材料のよい竹が手に入りにくい 竹林の手入れをする人が減った	向き合う →  2 地域の人と竹林を育て、手入れをして材料を守る 竹をかる時期を決めて、よい竹を残す
	3 今のくらしでは、かごを使う場面が減った 安くて軽い入れ物がふえた	向き合う →  3 今のくらしに合う新しい製品をつくる（明かりのかさ・かばん） 外国の人にも紹介し、売る場を広げる

伝統の技を続けていくには

両方があって、技はこれからも続いていく

昔 → **受けつぐ（工夫1・2）**：技と材料を守り、次の人へ伝える →  伝統の技 → **新しくする（工夫3）**：今のくらしや外国に合わせて広げる → これから

※ 模式図。架空の地域の竹の編みかごづくりの例。人の数は模式で、課題と工夫の組み合わせは地域によってちがう。